



もう一歩、その先へ

海風旅。

佐世保・小値賀読本



海風の国へ ようこそ。

刻々と変化する
風の香りを集めよう。

西九州自動車道天神山トンネルを抜けると、佐世保市街地が目飛び込む。まちの三方を囲む山々。

唯一開けた西側が佐世保港だ。大きさと高さを競うかのように、様々なクレーン、護衛艦が居並ぶ造船所と基地は、市街地と隙間なく隣り合わせ。

佐世保港の歴史は明治期の海軍鎮守府設置からはじまり、当時もつとも近代化された海軍の港だった。

明治以降成長と発展をつづけた港と市街地は、いち早く米国文化にふれた昭和をはさみ、今もそれぞれの時代の香りが、まちの片隅や暮らしに残っている。

鉄道、バス、船の三つの駅・ターミナルも隣り合わせに。ここにクルマを置いて、もう一步、その先へ。

雄大な多島海の九十九島、その海に豊かさをもたらす森と棚田が連なる里山、古来の日本の美に触れる歴史街道の宿場町へはローカル鉄道とバスが結ぶ。

長い苦難の時代を乗り越えたギリシタンの末裔が暮らす島、温暖な気候と豊かな海が育んだ強くて心優しい漁師たちの島へは定期高速船とフェリーが結ぶ。

目的地まで刻々と変わっていく眺めと風の香りを楽しむことも、ここならではの旅だ。

佐世保・小値賀へのお越しを心よりお待ちしております。



目次

SASEBO — 4

佐世保港 — 6

九十九島 — 8

九十九島北部 — 10

黒島 — 12

江迎 — 14

吉井・白岳 — 16

世知原・柚木 — 18

早岐 — 20

三川内 — 22

宇久島 — 24

小値賀島 — 26

野崎島 — 28

日本遺産佐世保を陸から海から堪能する、
おすすめのプログラム — 30

させば街角スケッチMAP — 32



海風旅。広域MAP

0 2 4km



国際通りを佐世保川方面にむかう。

佐世保橋に立ち、河口方向を眺めると右手には大きな病院がある。この辺りは、江戸時代には佐世保浦と呼ばれていた。水主^{かみ}長屋などが100軒程並び、町は賑わいを見せていたようだ。水主は漁民のことで、いざ事がおこれば水軍になるという、海をよりどころとした平戸藩ならではの制度があった。明治の中頃までの海岸線はもつと山際までせまり、ここから各地へ船が出入りしていた。

この佐世保浦は波静かで水深も深く、約33kmの広さは、軍港としては他に類を見ない天然の良港だった。佐世保鎮守府が開庁する明治22（1889）年以降、市街地は佐世保橋のたもと、元町から大きく広がっていった。造船所、鉄道、国道、水道、電気、市街地など大正時代にかけて整備され、海軍の町として成長を続けた。

現在の佐世保市は、近世から近代まで、その時代時代を偲ばせる建造物や食をはじめ生活文化が残り、また大戦後のアメリカ文化をいち早く取り入れ、さまざまなものが混在するユニークな港まちである。



佐世保公園 佐世保川に面した緑多い公園は、元は旧海軍練兵場。現在は市民の憩いの場で、散策やジョギングコースとしても人気だ。米海軍管理のニミッツパークと隣接しており、米軍関係者の姿も多い。

外国人バー街 中心部のアーケードが国際通りと交わるあたりには幾つもの外国人バーがある。かつてJAZZや英会話はここで覚えた話す市民もいた。アメリカ文化にいち早く触れ取込んだ佐世保市ならではの歴史や風情を感じることができる。



とんねる横丁 戦時中の防空壕を利用した商店がずらりと並ぶ。奥に深いつくりと懐かしい品揃えに、つい覗きこみたくなる店ばかりだ。



戸尾市場街 大正時代から佐世保市民の台所として親しまれている。店先まであふれた商品と賑やかな笑い声に、雑多で懐かしい匂いを感じる。辺りにはカフェやバーガーショップもあり、界限散策も楽しみたい。



海上自衛隊佐世保史料館（セイルタワー） 旧海軍の士官達が集った「佐世保水交社」の一部を保存した八角屋根が目印。海軍佐世保鎮守府開設当時から、現在の海上自衛隊に至るまでの歴史を史料や展示で辿ることができる。展示ロビーは、知る人ぞ知るナイスビュースポット。



🕒 9:30～17:00（入館は16:30まで）🆓 無料 🚌 大型バス6台、普通車約20台（無料）📅 第3木曜日、12/28～1/4
☎ 0956-22-3040



旧ジョスコー線跡 旧海軍専用鉄道として明治36（1903）年完成、のちに接収されジョスコー線とよばれた。



旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館（佐世保市民文化ホール） 佐世保橋を渡るとまっ先に目に飛び込んでくるのが、風格ある白い建物。海軍ゆかりのまちの象徴であり、現在は演劇や音楽の発表の場として市民に親しまれている。登録有形文化財。



万津（よろづ）6区 佐世保朝市周辺には、小さいながらも個性が光るショップやカフェなど約30店舗が集まっている。中でも9店舗が軒を連ねるBRICK MALL SASEBOは、かつての倉庫をリメイク。古い煉瓦や梁などをアレンジした店内には“新しい”と“なつかしい”が同時に漂う、とても愉快で居心地のいい空間だ。

旧海軍の歴史と今を伝える

佐世保港

Sasebo-Port



南へと陵線が続く俵ヶ浦半島の懐深くに佐世保港はある。明治22（1889）年鎮守府の開庁以降、海軍の近代的な港として整備、発展してきた。明治38（1905）年日本海海戦に勝利した連合艦隊が凱旋したのもこの港だ。

1900年以降軍港を守るための要塞建設が始まる。佐世保港入口にあたる俵ヶ浦半島は、重要拠点として観測所と3砲台を設置。人里離れた山奥に当時のままの姿で時を刻んでいる。

第2次大戦後は米国海軍の基地としてさらに変貌をとげた。現在は大々とした艦船、離島フェリー、大型観光クルーズ船など、年間約2万3千隻、約128万人が出入港する、日本有数の港だ。



明治20（1882）年から始まる建設には、月に延べ17万人が動員された。海を埋め、山を崩す大工事だった。



①米海軍佐世保基地司令部（旧佐世保鎮守府港務部庁舎） 大正5（1916）年建造。鉄筋コンクリート製の建物としては最古級といわれている。



②旧第一上陸場 明治期旧日本海軍が設置した上陸場。



③艦船群 強襲揚陸艦をはじめ巨大な艦船が係留されている。



④立神係船池とハンマーヘッド型クレーン 幅576m奥行363mの巨大な艦船のための“池”と起重機。大正2（1913）年完成。



⑤佐世保重工業（SSK） 旧佐世保海軍工廠の施設を引き継いだ造船所。



⑥赤崎貯油所 日本初の鉄筋コンクリート製重油槽があったところだ



⑦前烟火薬庫 明治22（1889）年の設置から終戦まで拡張された烟火薬庫。



⑧海上自衛隊倉島岸壁 陸側からもっとも近くに艦船を見ることができる。休日には艦船の一般見学会が開かれる。



⑨干尽倉庫群 大正時代から終戦までに9棟が建てられた。石造り風、間口180mにも達する1号倉庫は圧巻だ。



針尾無線塔〈国重要文化財〉佐世保湾と大村湾の境をなす針尾島には、巨大なコンクリート塔3本がそびえ立つ。旧海軍により1922（大正11）年完成、日本初期のコンクリート高層建築物である。佐世保駅から車で約30分。



俵ヶ浦半島に点在する明治期の港を護った砲台跡や観測所跡は旧日本陸軍が造った施設。

陽射し踊る命のゆりかご

西海国立公園 九十九島

kujukushima



四季それぞれの表情を見せる九十九島。複雑なりأس海岸と208の島々がつくる海岸線の長さは353kmに及びそのうち自然海岸は約8割、現在の日本では希少な場所だそう。

九十九島海域の複雑な海岸線の台地には、多くの常緑広葉樹林がいまや奇跡といえるほど残されている。雨が降るたびに森からの栄養素が海へ流れ込み、魚をはじめ生き物の餌となる豊富なプランクトンが生まれ育つ。そのために水は透明ではないが、深い蒼色が豊かな海であることの証しなのだ。

この海の魚は約1000種にもおよぶ。また海藻類、カブトガニなどの甲殻類、サンゴといった水中生物も数多く生息し、干潮時には近くで見ること可能だ。

季節を知らせる野鳥が降り立つ。リレーのバトンをつなぐように四季の花々が開花する。

こうした自然の営みを見せながら、もう一方では豊かな恵みを人々に

与える海でもある。

太古には温暖な気候と海で獲れる糧が人々を海岸に定住させた。ある時代には無数ある浦々の一つひとつが集落を形成できる程の海の恩恵をもたらしていた。現在、魚種も漁獲も豊富な漁場としてまた牡蠣、真珠などの養殖場として人々の営みを支えている。

九十九島は生き物の多様性や生命のつながりを、春夏秋冬見せてくれる。

知れば知るほどもっと知りたくなる、懐の深い海、それが九十九島だ。



九十九島真珠養殖発祥の地“亀の子島”。古い木道橋がいまも残る。

西海国立公園九十九島ビジターセンターには九十九島を知り尽くしたスタッフが常駐。九十九島の自然を体感でき、子供からお年寄りまで楽しめるイベントも開催している。



九十九島北部

The Northern
Kujukushima Region

複雑な海岸線が作る浦々には水主の住まいが多数、点在していたのかもしれない。水主は、漁師と水軍をかねた、海を活躍の舞台としたであろう男たちのことだ。その子孫にあたる漁師たちにとって、九十九島の海は、人生を懸けたかけがえのない漁場である。

魚種や漁獲の豊かさは日本の中では指折り。なかでも目前の海で獲れるカタクチイワシは日本一を誇る。日本人の味噌汁はおれたちが支えとつと！味噌汁の出汁に欠かせないイリコのことだ。

屈託のない笑顔を見せてくれた九十九島の漁師たち。今日まで数百年にわたり、豊穣の海九十九島は浦々の暮らしと人の笑顔を守ってきたのだろう。



九十九島南部の野性的な大自然とは対照的に、北部は小さな漁師まちの風景が印象的だ。



漁師も若返りが進んできた。仲間たちとの夕食は楽しいのひとつだ。



長串山（なぐしやま）公園〈九十九島八景〉 春、10万本のつつじが咲き誇る鹿町町の長串山公園。ピンクのグラデーションの先に新緑の九十九島の島影が広がり、幻影のような美しさに目を奪われる。見頃の時期には長串山つつじまつりが開催され、写真愛好家や家族づれが多数訪れる。☎長串山公園 0956-77-4111



冷水岳（ひやみずだけ）公園〈九十九島八景〉 九十九島北部の絶景を、色んな角度から楽しむことができる展望台。北側にどっしり構える長串山や大観山の峰々の姿も壮観だ。
☎佐世保市小佐々町矢岳 1618-12



黒島は地下水が豊富で水の豊かさが潜伏キリシタン定住の理由ともいわれている。島唯一の喫茶CAFÉ海咲(みさき)は島の天然水を使った黒島ブレンドが人気。

☎0956-56-2310 🌳木曜



明治17(1884)年黒島のカトリック教徒が移り住み建てた浅子教会(現在の建物は1928年完成)をはじめ、西海の浦々に小さな教会が点在している。



信仰復活の地 信徒の存在を告げるために命懸けで大浦天主堂を目指した出口家の跡地。宣教師による最初のミサを記念し碑が建てられた。



蔵地区 古くからのカトリック集落で、潜伏キリシタンの開拓地である。海から上がった場所に防風林に囲まれた家を見て、その背後の斜面を畑として開墾していった様子が伺える。〈国重要文化的景観〉

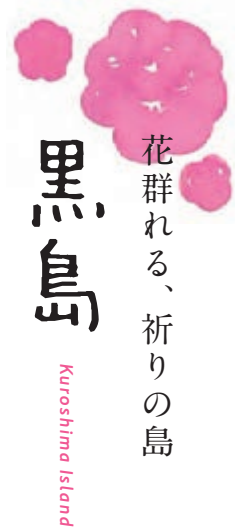


ほぼ島の中央に位置する黒島天主堂。明治30(1897)年に着任したマルマン神父により建設がはじまる。40万個の煉瓦、信徒の献金と労働奉仕で、1902(明治35)年に完成。〈国重要文化財〉



完成から110年を経た天主堂は今日でも黒島で暮らす人々の心のよりどころだ。信仰を守り抜いた人々の心の強さや精神の豊かさがつくるやさしい笑顔はいまも引き継がれている。

佐世保相浦港からフェリーで50分。車が数台乗ればいっぱいになる小さなフェリーが、唯一本土と島を結んでいる。周囲12km、九十九島最大の面積をもつ黒島の人口は現在約500人。そのほとんどが半農半漁で暮らす。島民の祖先にいたる人々は、250年前迫害から逃れてきた潜伏キリシタンだ。貧しさに耐え、痩せ地を開き生きる糧と希望をつないだ。「雨が降ろうが風が吹こうが、毎朝早くに御堂に行く。そうしないと一日が始まらない」。





江迎本陣跡〈県有形文化財〉
見学は要予約・12月は不可
☎0956-65-2209



毎年8月23・24日に催される水かけ地蔵まつり・江迎千灯籠祭。



江迎

Emuke-cho

水に心を込めたまち

夏盛りの8月、こどもからお年寄りまでまちを上げて行う祭りを
見たくて江迎へむかった。

江迎の夏の風物詩、水かけ地蔵まつりと千灯籠祭り。約450年間にわたり親から子へと引き継がれてきた祭りだ。寿福寺の木彫り地蔵を、神輿にのせ嘉例川まで運び元氣良く水をかける子供たちの姿には、思わず笑顔と親心に似た気もちが沸き起こった。夜には、高さ25mのタワーに約3300個の灯籠が飾られ、幻想的な街並が夕闇とともに現れた。

翌朝、204号線を北上し、潜龍酒造へ。左手に江迎川、右手に漆喰の白壁の建物が並んでいる。

中央にはどっしりとした門構えの屋敷がある、平戸藩主が一夜を過ごす江迎本陣跡だ。平戸口から彼杵^{そのぎ}まで約60km(15里)、殿様道と呼ばれた平戸往還では唯一完全な形で残されている。藩主の間は沈水舎と呼ばれ、35代平戸藩主観中公が名付けた。池の水が縁側の下まで伸びている。この池がその名の謂れであり、殿様は池に落ちる滝の音を聞きながら一夜を過ごした。また手洗いの流した水が優雅な音を奏でる水琴窟が庭の片隅にある。京の庭師によって作られた、水による心くばりの仕掛けである。

吉井、白岳へ

Yoshii, Mt. Shiratake



潜龍ヶ滝



昭和 17 (1942) 年完成福井川橋梁〈国有形文化財〉。
写真：佐世保市教育委員会提供



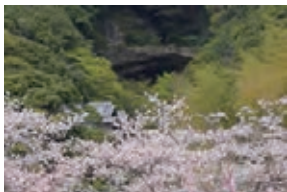
13世紀頃築かれたとされる直谷城跡〈県史跡〉。

佐賀県伊万里市と松浦市との境に位置する国見山、八天岳、隠居岳、白岳などの山々を源に、佐々川、相浦川、松浦川、江迎川などが流れている。それらの川が流れる谷あいにはいくつもの里山がありまた予想だにしない絶景もあるらしい。谷あいの水がつくる景色を求めて、MR吉井駅から徒歩で散策を試みた。

吉井町を流れる佐々川に沿ってしばらく歩く。佐々川に合流する福井川を遡ると、途中、昭和初期の福井川橋梁と中世の山城直谷城跡を見ることができた。さらに道をすすむと激しい水音とともに突然、滝が現れた。潜龍ヶ滝だ。平戸藩主観中公が京の絵師に描かせた『平戸地方八奇勝図』のひとつである。



紅葉の名所として有名な御橋観音（平戸八景のひとつ）。

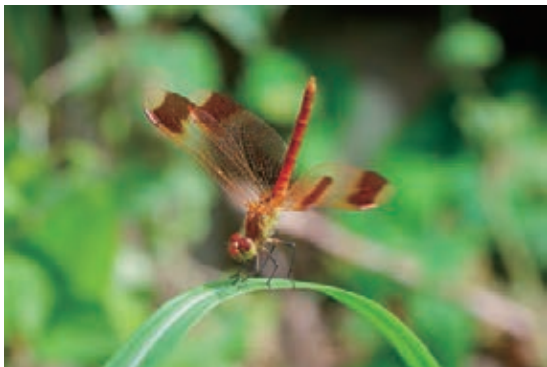




迫る緑を望む露天風呂。世知原温泉くにみの湯 天空の宿 山暖簾 ☎0956-76-2900



明治中期から作られている世知原茶の玉緑茶は全国的にも珍しい品だ。



国見山麓は深い緑に心と体を生
き返らせるドライブにはもってこ
いの場所だった。
ここは湧き水が豊富で多数の棚
田が連なる。また希少な赤トンボ
「ミヤマアカネ」が飛び交うほど
の清流だそう。かつて明治期に
は海軍鎮守府や市街地に供給する
貴重な水源として注目され、日本
初期の近代水道施設が造られた地
域でもあった。

源流から谷あいの里山をくだり
川は最下流域へと向かう。ここ
には複雑な海岸線が無数の小さ
な干潟や入江を形成し、その先は
九十九島の波静かで豊かな漁場と
なるのだ。



明治33(1900)年完成、同形構造の岡本水源地。



世知原・柚木へ

Sechibaru, Yunoki

緑香る風に吹かれて

早岐の中心部に小さな川がながれている。その川岸に沿って建つ家々は川の中に石の柱を立てせり出している。窓から魚釣りの糸を吊るすひともいるのかもしれない。早春、川面にはたくさんなまこの鰻の子が群がっていた。

この小さな川は江戸時代初期につくられた人工の川で、早岐川という。川岸に並んで建つ早岐本陣と脇本陣を防御する堀の役割を担っていた。いま本陣は古風な門構えと石垣堀が残るのみ。早岐のまち中の道は鍵状になっており、これも防衛上の理由からで、ここが軍事・経済にとって重要な浦・宿場であったことを物語る。早岐瀬戸側へ歩いていくと、渡し場の碑が立つ。この場所は昭和のはじめ頃まで汽船の発着場で針尾島への渡しや大村湾岸、佐世保湾を経て平戸や五島の人々が乗り降りし、生活用品も陸揚げされ、たいへんな賑わいがあったようだ。

海の幸と山の幸を物々交換した、今日まで400年続く茶市は、この町が交流と物流の要衝であったことを今に伝えている。



その早岐茶市が開かれる堤防沿いを観潮橋まで歩いた。

「潮が満つときは東に流れ引く時は西に湧いてその響きは雷のようである。それで速来門はやきもんという」古文書に出てくる早岐瀬戸の謂だ。



①平戸往還 往還は道幅1間(1.8m)の細い道だ。平戸藩主が長崎勤番の時に行列をしつらえ通った古道が今も残る。

②早岐本陣跡 早岐浦で廻船問屋と酒蔵を営んだ谷村家が建立。本陣を早岐では「お茶屋」と呼んだそう。

③早岐茶市 山海の恵から農具や生活用品までが瀬戸沿いにずらりと並び、瀬戸を渡る風に誘われて、大勢の人でにぎわう。◎初市5/7～9 中市5/17～19 後市5/27～29 梅市6/7～9





藩（東）窯跡



馬車道



陶祖神社

高まった気もちのまま再び国道を下り皿山を目指した。
皿山集落の奥の高台にある神社へ。
釜山神社。ここには陶祖中里えい（高麗ば）が祀られている。
藁灰を使った陶器などこれまで三川内になかった技術をもたらしたとされる。
谷を挟んだ陶祖神社は今里弥次衛（如猿）が祀られている。如猿は平戸藩窯二代目棟梁で、17世紀中頃までに、天草陶石と針尾網代陶石の調合に成功し、当時最先端、純白の白磁を完成させたのだった。



遡ること400年、一子相伝の技はいまも現代陶工たちに引き継がれている。

三川内焼の積み出し港だった早岐瀬戸から、国道57号線を北上しJR三河内駅に程近い三川内焼美術館へ向った。
ここは世界を魅了した御用窯時代の逸品から現代の秀作までを一堂に展示している。三川内焼の歴史を辿りながら作品を鑑賞できるのだ。純白できめ細かな磁肌、それに映える呉須の繊細な染付けと輝きが最大の特徴である。また透かし彫り、ひねり物、細工物などあらためて陶工の匠の技に感動を覚えた。



薄胎（はくたい）のコーヒーカップ（江戸後期）
純白で紙のように薄いと称された三川内「エッグシェル」。ヨーロッパの王侯貴族を魅了した卵殻手（らんかくて）の技術は、江戸時代後期に三川内皿山で開発され、明治期にかけて長崎出島を経由し相当数輸出された。



竹林の七賢人置物（江戸後期）

三川内から長崎出島へ、
そしてヨーロッパへ

三川内

Mikawa

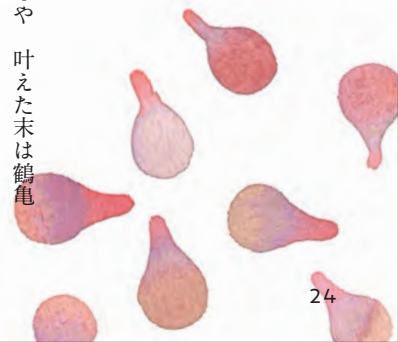
染付菊秋草文瓶（江戸後期）
写真：佐世保市教育委員会所蔵



隅々に神様が宿る島

宇久島

Ukujima Island



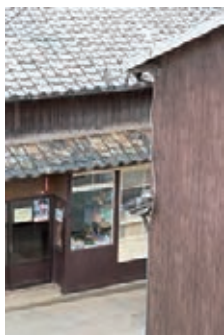
「思たこちや 叶えた末は鶴亀
上に舞うのは 鶴ではないか お
宿繁盛と よからよからよ これ
より先は ましてこの先や……」

男たちの唄声が場内に響き渡る。
江戸時代から唄い継がれた宇久祝
い唄「大唄ヨイヤサ」。捕鯨ゆか
りの唄であり、鯨との格闘や大漁
の祝い唄として鯨組でうたわれて
いたものが起源。いまも祝いの席
では欠かせない唄でありその席に
ふさわしい文句が即興で披露され、
そこがこの伝統芸能の見せ場だそ
うだ。

人口2300人、周囲38kmの小
さい島には神社仏閣がとて多い。
神社は28の集落にひとつずつ、さ
らに観音堂や地藏堂も建つ。また
弘法大師が立ち寄ったとされる地
が点在。巡礼の八十八ヶ所霊場さ
えも存在する。こうした寺院や神
社は鯨組や鮑漁で財をなした人の
寄進によって支えられていた。
鯨漁は宇久の豊かさの象徴であ
り、その恵みへの感謝の心が、島
のあちこちに残されている。



屋号を記した商家の瓦、かつての賑わいと繁栄を
伝えている。



宇久島最古の寺東光寺
(1187年創建といわれ
る)には、江戸時代に宇
久鯨組山田家の浄財によ
ってつくられた仏像や供
養塔が奉納されている。



暮らすように旅をする

小値賀島

Ojika Island



佐世保港から西へ70km、五島列島の北に位置する小値賀島。まるで海上を飛ぶような高速船で1時間半の船旅だった。

小値賀島は海底火山の溶岩が作り出したなだらかな地形をもち、平地が多く、米など豊かな作物にめぐまれている。

小さな島だがかつては鯨漁の



70年前から小値賀島で栽培されている落花生。島の赤土と日差しがコクのある甘さを育むそうだ。人の目で選別し人の手で炒るのは昔も今も。そんな落花生をはじめ島の農産物を使った、若者発のヒット商品も生まれている。

一大拠点として、また外国との貿易寄港地として多くの人があつまり、賑わいそして多い時には約1万人が暮らしていたそう。今では当時の4分の1程度の人口になってしまった。しかし過度の経済社会の影響を受けずに、島の自然や伝統、人との緩やかなつながりを守り、一日一日を紡ぐような暮らしが残っている。

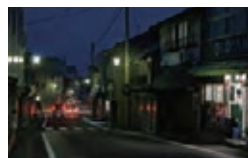
小値賀島では、平成13年から島の産業を守り、次世代へつなぐことで、島の営みや景観をも守っていくという『担い手公社』事業を始めた。島の内外から、希望する若者を研修生として受け入れ立ち上げるまで支える。農業や農産物加工などで一歩一歩だが確実に成果が出ているそう。



捕鯨と酒造りで財を成した旧藤松家屋敷。
現在は古民家レストラン藤松。



小値賀港から程近い漁師町の路地を歩くと、そこには時間を巻き戻したかのような風景がある。久しぶりにふるさとへ帰ったような気持ちいい錯覚、おもわず「ただいま」とつぶやきくなる心地よさは、この島が旅人に与えてくれる最高の贈り物かもしれない。



ともに生きた島

野崎島

Nozaki Island



野崎島海域は、遣唐使船などが行き交う海上交通の要衝であった。島の北端には8世紀に創建された沖ノ神嶋神社がある。江戸時代には平戸藩主の代参も度々あった。この頃には小値賀島を含む五島列島の全域に神道が広がりを見せ、野崎島は神道信仰者にとっての霊地そのものだったらしい。

19世紀に入り、島には長崎外海地方から迫害をのがれるためにキリスト教信者が移り住んだ。島の中央に位置する野首集落と南側の舟森集落だ。

野首は18世紀初頭、小値賀島で捕鯨や廻船業で財をなした小田家の開拓地だったが後に放棄。それから約100年後に潜伏キリシタンの集落ができていった。

一方、舟森は、人間味溢れる、その誕生と交流の歴史秘話が残されている。江戸時代、小値賀島で舟問屋を営む田口家当主が、明日処刑される3人の潜伏キリシタンを不憫に思い、大村の港から舟底に隠し島へ連れ帰った。当時未開の地であった舟



森に住まわせたが、その後も交流は続いた。彼らは親のように長く田口家への恩を忘れなかったそうだ。

貧困や苦役に耐え信仰を唯一の喜びとして命と希望をつないだ。そして1873(明治6)年、長い禁教が解かれ信仰の自由を得たのだった。

1908(明治41)年1月、現在の旧野首教会の建築が始まる。教会建築の名工、鉄川与助の設計、施工で11月には竣工した。強固な煉瓦造りの教会を得た野首集落にはその後移住者が増え200人程が暮らした。

その後1960年代まで集落は続いたが、急激な経済社会の進行とともに、離島者が増え続け70年代に入り遂に廃村となった。

野崎島は、古来からの信仰と共存しながらキリスト教が信仰継承されていった貴重な歴史をもつ。また潜伏キリシタンの集落跡や石積みのお堀跡、共同墓地、建築時の姿を留める旧野首教会など、破壊されることなく残っていて、再びその歴史的、文化的価値が見直されているのだ。

- ・国重要文化的景観
- ・世界文化遺産登録(推進中)



王位石と沖ノ神嶋神社



旧野首教会



㊤野崎港 ㊦舟森集落跡



野首集落跡(野崎島自然学塾村)

テレホンガイド

〈交 通〉

◎バス

佐世保市営バス(路線バス).....0956-25-5112

西肥バス(路線バス).....0956-23-2121

(高速バス).....(予約)0956-25-8900

西鉄バス(高速バス).....(予約)0120-489-939、(予約)092-734-2727

◎鉄道

JR佐世保駅.....0956-22-7115

MR松浦鉄道佐世保駅.....0956-25-2229

◎フェリー・高速船

九州商船(小値賀・宇久方面).....095-822-9153

黒島旅客船(黒島).....0956-56-2516

◎タクシー

佐世保市タクシー協会.....0956-22-2714

長崎空港乗合ジャンボタクシー.....(予約) <http://www.jumbotaxi.info>
携帯予約 <http://www.jumbotaxi.info/m>

〈施 設〉

九十九島パールシーリゾート.....0956-28-4187

西海国立公園九十九島ビジターセンター.....0956-28-7919

三川内焼美術館(伝統産業会館).....0956-30-8080

海上自衛隊佐世保史料館(セイルタワー).....0956-22-3040

〈お問合せ〉

佐世保観光情報センター(JR佐世保駅構内) ...0956-22-6630(9:00~18:00/年中無休)

ホームページ情報

佐世保・小値賀の観光情報.....<https://www.sasebo99.com/>



SASEBO 港まち歩き

〈7日前までに要予約〉◎出発時刻/10:00・14:00

◎所要時間/約90分 ◎集合場所/佐世保観光情報センター ¥1,200円



SASEBO ナイトツアー

〈金・土・祝の前日に実施、7日前までに要予約〉◎出発時刻/19:30 ◎所要時間/約60分 ◎集合場所/松浦鉄道 佐世保中央駅前 ¥1,000円



SASEBO クルーズバス“海風”

〈佐世保駅～佐世保重工業(旧海軍工廠)～船越展望所～九十九島パールシーリゾート～佐世保駅〉 ほか2コース

◎1日3便運行・毎週木曜日運休(他運休日あり) ◎所要時間/100分 ¥大人(中学生以上)1,800円、小人(小学生)900円



SASEBO 軍港クルーズ

毎週土・日・祝(1便のみ 午前11時半頃出発) ¥大人(中学生以上)2,000円、小学生1,000円、チャーターあり(30名以上、または最低保証6万円～) ◎所要時間/約1時間(船体定期検査・天候により運休あり)



日本遺産佐世保を
陸から海から堪能する、
おすすめのプログラム

日本遺産に認定された佐世保市街地と湾を快適なクルーズバス海風と迫力の軍港クルーズがご案内します。
また港まち佐世保を歩いて楽しむ昼・夜ふたつのツアーもご用意しております。

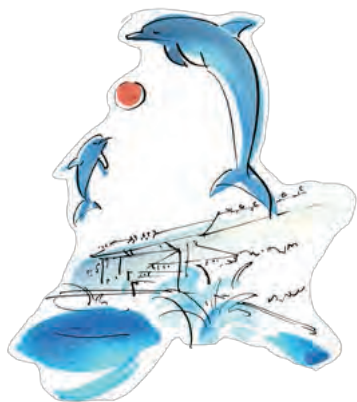
上記プログラムのお問い合わせとお申し込みは、佐世保観光情報センター ☎0956-22-6630(9:00~18:00・年中無休)

もう一歩先へ、ディープな
させばまち旅へ。

アルパカーキ橋を渡れば木々が生い茂る佐世保公園。そこに隣接する一帯はニミッツパークと呼ばれ、市民や基地の外国人の憩いの場だ。

年間約 23,000 隻、128 万人が出入港する、
日本有数の港だ。





海風旅。－佐世保・小値賀読本－

2018(平成30)年3月30日発行

企画・発行 (公財)佐世保観光コンベンション協会
〒857-0863 長崎県佐世保市三浦町21-1 (JR佐世保駅構内)
TEL 0956-23-3369 FAX 0956-23-6750

